

メールやサイト上

# 漢字に自動的にルビ

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振るサービスを、IT(情報技術)を活用した障害者支援に取り組み団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報の提示の仕方を交換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TP(時、場所、状況)に合

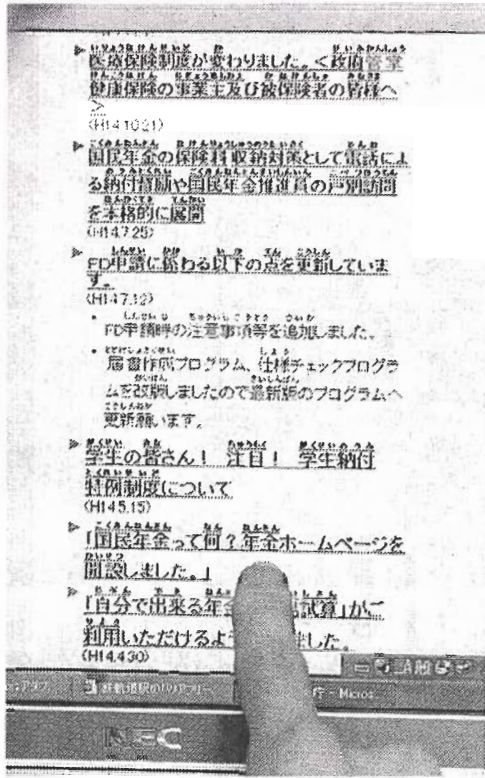
わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。すべての漢字にルビが振って表示されるが、同じ機能の市販パソコンソフトと違って無料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。

変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を受ける一人だが、現在の障害者支援技術には不自由さを感じるといふ。

例えば、音声読み上げソフトでパソコン画面の意味をつかもうとすると、文章を最初から最後まで聞いていなければならない。じれったいが、現状では障害者が、支援技術の仕様に合わせる形で利用せざるを得ない。鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字や音声、動画、静止画などを組み合わせ、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供する」ようなシステムを理想として思い描く。

「漢字が苦手」という人に合わせてルビを振り、読みやすくするサービスはこの構想の具体化の第一歩だ。今後は英語や中国語など外国語の単語を表示したり、その単語に関連した画像や音声を付けたりするな

## 障害者 無料でサービス 支援団体



ホームページ画面上の漢字にルビを振って表示される